ヴァシュロン・コンスタンタンの芸術工芸
手仕事の技
VACHERON CONSTANTIN
GENÈVE

VACHERON CONSTANTIN
GENÈVE

「ヴァシュロン・コンスタンタンの時計は、貴重な存在でなければ技術を誇る時計とは言えません。」

- 彫金、ジェムセッティング、ギヨシェ彫り、エナメルの各職人がデザインスタジオと手を取り合いながら働くメティエ・ダールの工房では、芸術的な職人技がひとつのグループを成し、その自由で熱心なやり取りの中から優れた製品が生み出されます。

- ヴァシュロン・コンスタンタンは約3世紀に渡って伝統的な芸術工芸を忠実に守りながらその職人技を発展させ、独自の創造性や世界に開かれた姿勢を永続させてきました。

- ヴァシュロン・コンスタンタンは1755年の創業以来、その特徴的なスタイルに加え、時計製造の熟練技術と芸術工芸の卓越した装飾技法を完璧に融合させることで、その地位を確立してきました。この2つのノウハウを永続させることは、高級時計製造の世界でも極めて稀なことです。

- メゾンはさまざまなスタイルを超越するユニークな芸術的かつ職人的な表現によって、その存在を際立たせています。工房では、職人は芸術家であり、またその逆も然り。彼らは、ヴァシュロン・コンスタンタンの人間中心主義と文化的な使命を体現しているのです。

ヴァシュロン・コンスタンタンの芸術工芸
手仕事の技

VACHERON CONSTANTIN
GENÈVE

267年以上も前のことでありながら、まるで昨日のことのように思い出されます。ヴァシュロン・コンスタンタンは、啓蒙主義時代のジュネーブで誕生し、この時代、美しい時計は機械科学と同様に芸術的な作品としても重視されていました。

CEOルイ・フェルラはこう述べます。「ヴァシュロン・コンスタンタンは誕生以来、この理念に基づく方針に従うべく努力を重ねてきました。とはいえ、それはまさしく言うは易し行うは難し、です。つまり、ヴァシュロン・コンスタンタンという時計は、貴重な存在でなければ技術を誇る時計とは言えません」。ヴァシュロン・コンスタンタンの時計の独自性を特徴づける最初のポイントといえば、全体の調和、自然な気品、そして高級時計製造に対する他とは異なるアプローチです。ヴァシュロン・コンスタンタンの職人たちは、こうしたことを念頭に置きながら、それを伝えるために謙虚に取り組みます。彫金職人、エナメル職人、ギヨシェ彫り職人、ジェムセッティング職人、あるいは時計職人のそれぞれは、たぐいまれな才能の持ち主で、その才能がリレー競技のように互いに伝え合い、日々アイデアを交換しながら、常に自由な発想で、絶えず向上を目指しています。最終的な成果は、個々の職人の作業や創造性にかかっています。彼らの完璧な専門技術とたゆまぬ対話こそが卓越性を追求し具現化した時計を生み出すのです。これらの職人はまさに、メゾンの心臓部であり魂なのです。

1755年の創業以来、ヴァシュロン・コンスタンタンはそのノウハウを育み、永続させ、絶えず進化させてきました。この革新を続ける伝統は、一度も途切れることはありません。装飾は、職人自身が考案した工具や、彼らが整備を続ける古い時代の複雑な工作機械などさまざまなものを利用しながらすべて手作業で行われます。ヒューマニズムと世界に開かれた姿勢を忠実に守るメゾンは、彫金、ギヨシェ彫り、エナメル、ジェムセッティングなどの技術を古くからある伝統的な装飾を尊重しながらも常に新しい発想や革新的な技法を探求し続けています。

VACHERON CONSTANTIN
GENÈVE

ジャン・カルヴァンが1541年にジュネーブで神権政治を始めると、ジュエリーや装飾品が奢侈の象徴として禁止され、金細工師は時計製作へと転換を余儀なくされました。この転換が、ジュネーブで比類ない時計製造ブームの幕開けとなり、そうしたブームがやがてヴァシュロン・コンスタンタンの源流にもつながります。18世紀初頭、ジュネーブの人口の5分の1がディドロとダランベールの『百科全書』で「ラ・ファブリーク」と説明される組織に属していました。それは、5000人以上の時計職人や金細工師、宝飾職人、各種職人からなる豊かな環境を形成した組織でした。

「ヴァシュロン・コンスタンタンのスタイル決して失うことなく、他分野からの要素を取り入れ、置き換え、解釈を施す能力は比類ないものです。」

ヴァシュロン・コンスタンタンが長い年月をかけて培ってきたものは、この「手仕事の技」に他なりません。職人技による創作に用いられる手仕事は、革新のための探求とも切り離せません。それを実証するのが、さまざまな芸術的技法や熟達した時計専門技術を利用した「メティエ・ダール」コレクションやユニークピースとして作られる「レ・キャビノティエ」のタイムピースです。ヴァシュロン・コンスタンタンでは、それぞれの職人が職に精通しているだけでなく、新たな解釈にも取り組んでいます。新しいギヨシェ彫り模様や、フラムカット・セッティング、グリザイユ・エナメルの研究などが、ヴァシュロン・コンスタンタンによって独自に誕生しました。こうした芸術的および技術的な革新は、時計職人たちに対して新たな創作領域を広げ、幅広い探求分野をもたらしています。

VACHERON CONSTANTIN
GENÈVE

職人技がひかる芸術的な工芸品は、世界に開かれたメゾンの姿勢が表現し、その創作に他の文化からの影響が見られます。スタイル&ヘリテージ ディレクターのクリスチャン・セルモニは「ヴァシュロン・コンスタンタン固有のスタイルを失うことなく、他分野からの要素を取り入れ、再解釈する能力は他に類を見ません」と説明します。

メゾンは2世紀半以上に渡り独自のノウハウの育成と保持に努めてきました。それは社内の人材のみならず、社外の才気あふれる職人に対しても同様です。例えば「メティエ・ダール ヴィル・ルミエール」がこれにあたります。この時計は、メゾンのエナメル職人と、グラン・フー・エナメルのダイヤルに貴金属のパウダーを施した日本のアーティストとのコレボレーションによって誕生しました。他にもルーヴル美術館に収められた遺産を称えるシリーズ「メティエ・ダール -偉大な文明へ敬意を表して-」があります。これらの時計は、マイクロモザイクやストーンマルケトリーの技法に習熟した専門職人との密接なコラボレーションから生み出されました。

ヴァシュロン・コンスタンタンの工房では、職人と芸術家とを区別する境界線が単にはっきりしないのではなく、必要に応じて境界線が完全に消え、ルールに縛られることなく、両者が調和して一体になるのです。職人たちの膨大な技術の知識は、独創性や直観の点で自由な創作を促進します。高級時計の製造ではあまり例のないこの大胆な取り組みが、彼らの専門技術を一層豊かなものにするのです。「レ・キャビノティエ」や「メティエ・ダール」には、職人からの提案から生まれたいくつかの特別なタイムピースも存在します。文化や旅に関わる、このヒューマニズム溢れる職業に揺るぎない独自性を保つ知恵や、手仕事の技を体現する秘訣が表れているのは、偶然などではありません。

「ヴァシュロン・コンスタンタンの工房では、職人と芸術家とを区別する境界線が単にはっきりしないのではなく、必要に応じて境界線が完全に消え、ルールに縛られることなく、両者が調和して一体になるのです。」

1755年に創業したヴァシュロン・コンスタンタンは、270年近く一度も途切れることなく時計製造を続ける世界最古のマニュファクチュールであり、卓越した時計製造と洗練されたスタイルを何世代にもわたり熟練の職人により継承し、輝かしい遺産を守り続けてきました。

メゾンが製造する時計は、控えめで気品豊かなスタイルに高級時計の素晴らしい価値が体現され、その一つ一つに、最高峰の職人技と極めて高度な仕上げを施し、ヴァシュロン・コンスタンタンならではの技法や美意識が表現されています。

ヴァシュロン・コンスタンタンは、そのコレクションを通じて、比類ない伝統と革新の精神を実現しています。「メティエ・ダール」、「パトリモニー」、」「トラディショナル」、「オーヴァーシーズ」、「フィフティーシックス」、「ヒストリーク」、「エジェリー」はメゾンを代表するコレクションです。

さらにメゾンでは、時計に精通した時計愛好家のために「レ・コレクショナー」のヴィンテージウォッチや、「レ・キャビノティエ」部門を通じてユニークピースを提案する貴重な機会を提供しています。

#VacheronConstantin
#OneOfNotMany

VACHERON CONSTANTIN
GENÈVE

ONE OF
NOT MANY.